

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

上飯田地域ケアプラザは上飯田地区、いちよう団地地区、上飯田団地地区の3地区を担当しています。3地区に共通する課題として、高齢化がすみ地域活動の参加者が減少し、また地域活動の担い手も活動の継続が難しくなっているのが現状です。体力が低下しても可能な限り地域とのつながり、地域の活動に関心を持ってもらい、新たな担い手を発掘していけるよう支援していきます。ケアプラザとして地域のサロンなどの活動の後方支援やお祭りへの出店など地域活動への協力を行います。また外出困難な方への社会参加のために、近隣福祉施設と連携して地域での移動支援サービス体制を継続・実施していきます。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	■	介護者のつどいを隔月で開催します。またミニコーナーでは相談機関や認知症などの対応を伝える場づくり、家族支援を行うために信頼関係を構築していきます。
☐	■	ケアプラザだけでなく、地域のさまざまな場所で事業を開催し、定期的な高齢者の居場所を作っていきます（楽遊会、南町談話茶房、ふれあいサロン/各月一回実施）。介護予防講座を上飯田地区センターで実施していきます（共催）。
☐	■	地域事業、地域活動団体などから新たな担い手を確保していきます。
☐	■	子育てネット連絡会を区、社協、スキップ、上飯田幼稚園、YMCA保育園、ケアプラザを事務局として協働で開催し、子育て支援関係者、近隣の保育園、児童委員、民生委員などの方々と共に情報共有、地域の課題に取り組んでいきます。
☐	■	情報共有ツールを作成し医療機関との連携をスムーズに行うために、医療連携に関する研修を企画・実施していきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

○介護者のつどいの参加者は2名増えて毎回4～5名の方参加となりました。既存の参加者の方々が積極的に声をかけてくれて良い関係ができています。介護者のつどいの際は認知症についての説明や声のかけ方、介護する方が注意した方がいいことを伝えるようにしました。参加者の方々と信頼関係構築のために各参加者の話を傾聴するだけでなく、合間にコグニサイズや脳トレ等のレクリエーションも取り入れて関係構築とともに楽しく参加できる場作りを行ないました。周知活動について、民生委員の集まりや地域住民向けの講座の時にチラシを配ってより多くの方に参加してもらい家族支援ができるようにしました。

○包括主体での指先と頭を使うサロンとして手芸を継続実施(南町談話茶房・ふれあいサロン)、地域住民から寄付された毛糸・布等を活用し、ボランティアに依頼して下準備を行い、誰でも完成できるように定期的に実施・支援しました。

・楽遊会を毎月開催しました。参加者の「ケアプラザまで遠く来るのがやっ」との声を受け、他の場所(各サロン・自治会の集り)でも脳トレ教室を単発で実施、その後各会館の集会に声がかかり介護予防・介護保険の話の場を設ける機会につながりました。

○地区内でお手伝いが可能な方々や、そういった活動をご希望される方々へお声をかけをして、それぞれに合った活動とマッチングしました。また横浜市大とパイプを作ることができ、学生たちに地域活動へ参加していただきました。

○子育てネット連絡会を年4回実施(事務局会議は5回実施)、ウォーキング企画一回実施、各地区お祭り子どもブースの設置、公園遊びを一回実施しました。今年度はこれから子育てマップ作りを開催する予定です。

○区内包括合同では医療情報共有ツールの作成やケアマネジャーへの紹介、医療機関との連携に関する研修を行いました。

☐ 区からのコメント

・介護者の負担軽減に向けた介護者のつどいでは、楽しく参加できる場作りの工夫を行ったり、チラシの内容や配布先、開催場所を通いやすい自治会館で行うなど、より多くの参加者が集まることができるよう、効果的な事業展開に向け、様々な工夫を重ねた取組が行われています。次年度も引き続き、地域の課題や声をふまえた事業の展開を期待しています。

・生活支援体制整備事業では、泉区アクションプランに基づく、各種取組を進めていただいています。特に、高齢者の生活支援の充実に向け、福祉施設の送迎車両を活用した移動支援の実施や移動販売等、施設や企業等と連携したさまざまな取組も実施されています。次年度も引き続き、多様な主体と連携した取組の推進を期待しています。

・多様な地域活動について、各団体等の実情に応じたきめ細かい支援を行っています。また自主事業等について広報誌やホームページのほか、SNSを活用するなど積極的な広報に努めています。担い手の確保についても、新たに学生とのつながりができるなど新たな展開が見られ、今後の取組に期待します。